

大会計画策定(基本構想)幹事会の中間検討結果

大会計画策定(基本構想)幹事会 委員

区分	職 名	職・氏名
幹事長	鳥取県農林水産部 部長	鹿田 道夫 (しかだ みちお)
幹事	鳥取環境大学 教授	根本 昌彦 (ねもと あきひこ)
	鳥取県森林組合連合会 会長	入澤 宏 (いりざわ ひろし)
	(社)鳥取県観光連盟 専務理事	岡森 裕 (おかもり ひろし)
	米子市立車尾小学校 校長	達磨 晋 (だるま すすむ)
	トリネット 事業責任者	濱田 美絵 (はまだ みえ)
	鳥取市女性の森グループ 代表	井関 伸子 (いせき のぶこ)
	鳥取県市長会 会長	鳥取市長 竹内 功 (たけうち いさお)
	鳥取県町村会 会長	三朝町長 吉田 秀光 (よしだ ひでみつ)
	おんな山師集団 代表者	中野 ゆかり (なかの ゆかり)

幹事会の協議状況

第1回

平成22年9月10日(金)県庁34会議室

- ・基本構想(素案)について

第2回

平成22年10月12日(火)県庁33会議室

- ・基本構想(中間検討案)について

**第64回全国植樹祭
基本構想(中間検討案)
概略版**

第64回全国植樹祭 基本構想（中間検討案）

第1章 はじめに

1 策定の趣旨

開催理念、開催内容等基本的な事項を定める。

2 全国植樹祭とは

国土緑化運動の中心的行事。昭和25年以降、天皇皇后両陛下にご臨席を賜り、式典行事や記念植樹などを実施。

3 鳥取県での開催

昭和40年5月9日、第16回全国植樹祭を天皇皇后両陛下をお迎えし、大山町で開催。

第2章 開催方針

1 開催理念

鳥取県は、古くから森林のめぐみに生まれ、共に営みを続けてきた。全国に先駆け古代文化が発祥したのも、先人が、「木の文化」をもっていたからだといわれている。

しかしながら、長期に渡る林業不振で、森林の手入れが不足し、間伐の遅れ、竹林の繁茂、カシナガキイムの被害等機能が低下した森林が全国的に増加。衰えた森林の機能を回復するため「持続可能な森林づくり」が必要となってきた。

一方、京都議定書の発効等をきっかけとして、二酸化炭素吸収源としての森林機能等へ、県民や企業の関心が高まり、「とっとり共生の森」や、「森林環境保全税」に加え、カーボンオフセットを活用した森林整備等先進的な取り組みも開始され、その成果として、県内のCO2排出削減目標の多くを森林吸収が担い、「環境日本一」の鳥取県づくりを支えている現状となっている。

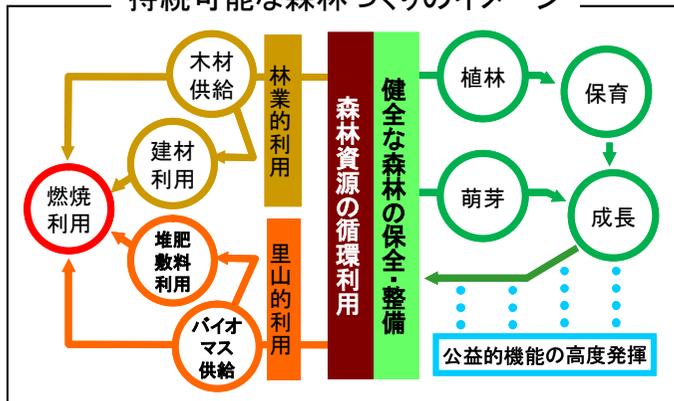
今後は、「持続可能な森林づくり」を押し進める取り組みを、県民や企業とともに展開していくことが必要となるが、時期を同じくして、平成22年の国際生物多様性年のCOP10名古屋開催や、平成23年の国際森林年、平成25年は京都議定書後の新たなスキームがスタートする予定の年であるなど、再び、森林の持つ機能や、保全・整備の重要性に国民的関心が集まると予想される

我々は、全国植樹祭の開催を機会に、それら国際的な動きを踏まえつつ、持続可能な森林づくりによる地球環境の保全や、里山林等森林と親しみながら共生してゆくライフスタイル、就業スタイル等を、「心癒される森林づくり」として提案し、全国植樹祭での交流を図る中で、環境先進県「とっとり」をアピールしていく。

2 大会テーマ、シンボルマーク

今後、開催気運を高めるような「大会テーマ」を県内から、「シンボルマーク」を広く全国から公募選定

持続可能な森林づくりのイメージ



第2章 開催方針

3 県民運動

全国豊かな海づくり大会(平成23年度鳥取県開催)への取り組みとして始めた県民総参加でふるさとの森・川・海を守り育てる「白うさぎ大使による新たな国造り運動」を継承発展させ、全国植樹祭の開催理念を将来に向かって共有し、実現し、次の世代につなげていくよう取り組む。

白うさぎ大使による新たな国造り運動

森林保全活動

①自然や森林の役割を伝承

「森林を知る集い」の実施

魅力あるふるさと「とっとり」を支える豊かな自然や森林の役割を再認識。その良さ大切さを学ぶ。

- ・里山や森林体験の無い子供たち等には、背負子(しよいこ)を使った薪拾いや、薪や炭を利用したストーブや、間伐材の利用等、セットで身近な体験型の仕掛けから導入。
- ・森林所有者ではない県民も参加した「森林の健康診断」を県内各地で実施。森林を遠目でなく実際入山して観察することで、新たな森林への関心を引き立てていく。

環境保全活動

清掃活動、エコ活動、ボランティア活動等、身近な海や川や山の環境保全の大切さに気づききっかけの場となるよう、県民参加による清掃活動など環境保全活動を実施。大会開催の気運醸成、そして大会終了後もゴミの抑制など環境保全に配慮した活動や行動を意識する気運を盛り上げていく。

②活力のある健全な森林と共生

「とっとり木づかい運動」の展開

各家庭や企業に何か一つ、県産材の木製品を使っていただく運動の展開。

- ・木製の組み立て式プランターカバーを、小学校等で着色・組み立ててもらい、大会で使用。大会終了後は、各小学校に返却し、メモリアルとして使用。
- ・植樹祭会場はもとより、キャラバン等ありとあらゆる場面で県産材を使用してPR

里山林等の再生活動

放置された里山林や、人工林、荒廃した竹林の生物多様性を保全するための再生活動を実施

ナラ枯れ防除等活動の展開

被害拡大の続くナラ枯れ(カシノナガキクイムシ)の防除活動を実施

- ・粘着テープの巻き付け等危険度の低い活動や、被害木へのシイタケ植菌の試行等も交えて、楽しみながら実施

森林機能の回復
森林の適正管理
林業従事者の増加
林業生産の活発化
林業採算性改善

大会後の発展

- ・県民が森林づくりの必要性を理解
- ・木材需要の喚起→木材価格上昇
- ・里山林等の生物多様性の保全
- ・森林病虫害の被害防止
- ・全国植樹祭等への参加意識の醸成

第2章 開催方針

4 開催会場等

(1)開催会場

会場の別	会場名(所在)	開催規模
式典会場	とっとり花回廊(南部町鶴田)	招待者5,000人程度 協力員、スタッフ等2,000人程度
植樹会場	とっとり花回廊内山林(南部町鶴田・伯耆町小野)	招待者4,500人程度
	国立公園奥大山高原(江府町鏡ヶ成)	招待者 500人程度
荒天会場	米子コンベンションセンター(米子市末広町)	招待者1,000人程度

(2)開催時期 平成25年春(5月下旬～6月上旬)、開催日は平成24年に決定

(3)企業協賛等 協賛を仰いで、大会内容の充実に努める。

第3章 式典行事

1 基本的な考え方

- ・参加者と開催理念を共有し、「また鳥取に来たい」と感じてもらう構成
- ・簡素化を図りながらも、厳粛で品格がある式典
- ・多くの県民の他、大会に賛同する企業等の参加



2 式典の演出

- ・式典構成は、プロローグ、式典、エピローグの3部構成。詳細は「基本計画」で具体化

3 式典の運営

- ・多様なボランティア等の協力を得ながら、温かいおもてなしの心をもって行う。
- ・出演者等は、地元をはじめ、県内関係団体等の積極的な協力と参加を得て編成する。
- ・経済性、環境に配慮された手作りの式典とする。

4 その他

- ・魅力あるふるさと「とっとり」を支える豊かな自然や森林の役割の発信
- ・「とっとり共生の森」参加企業による「環境教室」開催等、県内における取り組みのPR等。
- ・「森の健康診断」など県民運動の結果や、植樹祭の準備段階を含めた県民の関わりを含めた全体像を、映像で紹介。

第4章 植栽行事

1 基本的な考え方

- ・会場の気候風土に適した樹種など、地域特性に応じた森林づくりを目指す。
- ・多くの県民や「とっとり共生の森」参画企業が参加
- ・苗木は、県内で採取した種子を子供たちが育てたもの等使用
- ・植樹後は、緑の少年団等により、手入れを行う。
- ・「森林づくりの方向」や「植栽樹種の選定」は専門委員会の検討結果を基本とし、詳細は「基本計画」で具体化

2 お手植え・お手播き

- ・両陛下のお手植え・お手播きは、式典会場内で賜る。
- ・お手植えは3種類ずつ、お手播きは2種類ずつ賜る。
- ・樹種は、在来の県民に親しみのあるものとする。
- ・お手植えは、森林づくり運動のシンボルとして大切に育成。
- ・お手播きから養成した苗木は、広く「記念樹」として配布。

3 記念植樹

- ・参加者代表記念植樹は、式典会場内で行い、お手植えと同じ樹種を、1人1本植栽。
- ・参加者代表以外の記念植樹は植樹会場内で行い、1人1本以上の植栽とする。
- ・会場の一區画に、「とっとり共生の森」参画企業の協力による、「とっとり連携の森」を設定。
- ・花回廊の植樹会場では、子供たちの学習のための展示林を用意。

○植栽樹木検討専門委員会の検討結果抜粋

(1) 植栽樹種

お手植え

天皇陛下 下	アカマツ	皇后陛下 下	ヤマボウシ
	スダジイ		ウワミズザクラ
	コナラ		ホオノキ

※参加者代表植樹は、お手植えと同じ樹種。

お手播き

天皇陛下 下	クリ	皇后陛下 下	イロハモミジ
	ヤマザクラ		ヤマガキ

(2) 記念植樹(参加者代表以外)

場所	植栽樹種
花回廊	アオハダ、アカガシ、アカマツ、アベマキ、アラカシ、イヌシデ、イロハモミジ、ウワミズザクラ、エゴノキ、エノキ、カキノキ(ヤマガキ)、クリ、クロモジ、ケヤキ、コナラ、コハウチワカエデ、シラカシ、スダジイ、ホオノキ、マユミ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、ヤマモモ等(25樹種程度)
高奥国立大公園原山園	アオハダ、アズキナシ、イタヤカエデ、ウリハダカエデ、ウワミズザクラ、オオカメノキ、クリ、クロモジ、コハウチワカエデ、サワグルミ、タニウツギ、ツノハシバミ、トチノキ、ナナカマド、ブナ、ホオノキ、ミズキ、ミズナラ、ミズメ、ヤマボウシ等(20樹種程度)

(3) 森林づくりの方向

会場別	森林づくりの方向
花回廊	やぶを整理し、里山林の樹種を植栽。薪となる枝や堆肥となる落ち葉の採取、果実の採取、花木、野鳥の観察等「里山のめぐみ」の体験フィールドとしての森林づくりを進める。
国立公園 奥大山 高原	国立公園内の自然や厳しい気候等現地に配慮しつつ、ススキに覆われた開墾地を森林状態に早急に戻す森林づくりを進める。

第5章 会場整備等

1 基本的な考え方

- ・自然環境に負荷を与えない、原地形を有効利用した整備
- ・経費節減を図りながら、跡地利用も考慮に入れた整備
- ・会場等は、ユニバーサルデザインで、仮設物等には、県産材をふんだんに使用。木の香る会場づくりとする

2 会場整備

(1) 式典会場

- ・既存施設を最大限活用。式典終了後お野立所等の移設利用も検討。

(2) 植樹会場

- ・現況の植生や将来的な保全・利用を十分考慮

(3) 駐車場、サービス広場等

- ・駐車場は会場の近傍に確保。式典会場に隣接してサービス広場を設置

3 交通・宿泊等

(1) 交通・宿泊

- ・参加者は実行委員会が手配するバスで会場へ移動
- ・宿泊参加者は、原則実行委員会の指定する宿泊施設に宿泊。地域でのおもてなし体制を整える。
- ・添乗員の配置・案内等による快適な輸送体制。

(2) その他

- ・アクセス道路沿線は、地元の協力を得て、美化等に努め、参加者を歓迎。

第6章 記念事業等

1 基本的な考え方

- ・全国植樹祭の開催気運を高め、周知するとともに、森林のめぐみや森林整備の必要性等を広く啓発するため、記念事業等を実施。詳細は、「基本計画」で具体化。

2 記念事業

- ・県実行委員会が主体となって実施する。

(1) プレ植樹祭(開催1年前リハーサル)

(2) カウントダウン地域緑化イベント(24年度)

(2) 白うさぎ大使による新たな国造り運動(23～24年度)

(3) 記録誌・記録映像の作成、記念切手の発行(25年度)

3 関連事業

- ・関連団体が企画・運営する事業で連携させていただく事業

(1) 全国林業後継者大会(全国植樹祭開催日前日実施)

(2) 「とっとり共生の森」参画企業との連携事業(23～24年度)

4 広報活動

- ・開催理念や事業展開などについて、普及・浸透を図るとともに、県民によるおもてなしの気運を高める内容とする。

(1) 新聞、ラジオ、テレビ等の活用。定期広報誌の発行。

(2) 公募最優秀作品を各種パンフレット等に活用

(3) ホームページを開設しインターネットを効率的に活用

(4) 「とっとり共生の森」参画企業の広報でPR

9

(5) 県内の各種イベントにも積極的に参画・PR

第7章 運営方針等

1 基本的な考え方

- ・「おもてなしの心でお出迎え」し、開催意義や理念を伝える場とする。
- ・実施運営に協力いただき、市町村、林業関係団体、NPO法人及び各種ボランティア団体と密接な連携を図る。
- ・「おもてなしの心でお出迎え」は、観光関係者と協力

2 実施組織

(1) 第64回全国植樹祭鳥取県実行委員会 (平成22年度6月28日設置)

- ・構成 会長: 知事
副会長: 県議会議長、開催地首長
委員: 林業関係、水産・農業関係、女性団体、森林保全活動関係者、観光関係、商工関係、環境関係、学識経験者、県議会、市町村関係、国、県

- ・目的 「基本計画」、「実施計画」の策定など、全国植樹祭の総合的な企画・準備

(2) 第64回全国植樹祭開催準備庁内連絡会議

(平成23年度設置予定)

- ・構成 議長: 副知事
構成: 県職員等
- ・目的 計画の調整、実行組織の編成等

(3) 第64回全国植樹祭鳥取県実施本部

(仮称、平成24年度設置予定)

- ・構成 本部長: 知事
本部員: 県職員、地元市町村職員、関係機関職員、関係者等
- ・目的 全国植樹祭の円滑な実施

参考 植樹会場のゾーニングイメージ



交流の森

- 四季の彩りを感じられる樹木を植栽
- イヌシデ、イロハモミジ、ウワミズザクラ、ヤマガキ、クロモジ、コハウチワカエデ、ホオノキ、マユミ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、ヤマモモ



学習の森

- 子供たちがメモリアルとして、県木や市町村木等県内の代表的樹木を植栽。観察・学習展示林とする。
- ダイセンキヤラボク、サザンカ、ブナ、ツバキ、クロマツ、サクラ、アカマツ、スギ、イチイ、カキ、トチノキ、ナシ



体験の森

- 果実等が小動物や鳥、昆虫の餌となる樹木を植栽。多様な生き物が生息する森とする。
- アオハダ、エゴノキ、エノキ、ヤマガキ、アカガシ、アベマキ、アラカシ、クリ、コナラ、シラカシ、スダジイ



生活の森

- 暮らしの中で、薪炭、シイタケ原木、用材として利用可能な樹木を植栽。下刈りや落ち葉かき作業等で下層を整理
- アカガシ、アラカシ、ケヤキ、コナラ、シラカシ、スダジイ